

—— 仏検 ポスト 40 周年に向けて ——

実用フランス語技能検定試験（仏検）存続のためのご寄付のお願い

フランス語教育振興協会（APEF）は、1981年の創設以来、実用フランス語技能検定試験（仏検）を実施し、日本におけるフランス語教育の振興に貢献してきた公益財団法人です。今年で40周年を迎えた仏検は文部科学省と在日フランス大使館の後援の下で日本の機関が開催する唯一の公的なフランス語検定として国内外から高い評価を受けています。1級から5級まで、仏検の7つの級は、学習到達レベルを表す安定的な指標として個々の学習者の動機づけを果たすとともに、推薦入試・交換留学の選考要件、就職活動、社内昇進や海外勤務の選抜評価といった教育および社会の様々な場面において、信頼に足るフランス語の評価基準として活用されてきました。

2020年春、新型コロナウイルス感染拡大の影響で仏検春季試験の開催中止を余儀なくされたことで、当協会の運営は苦境に立たされました。法人年間収入の4割にあたる検定料収入が途絶える見込みとなったことから、2020年6月に「仏検存続のためのご寄付のお願い」の呼びかけを開始しました。内部経費の削減に取り組み、勤務体制や業務遂行の効率化を図り、また利用可能な公的助成を申請するなど、法人としてできる限りの努力を続ける一方で、2021年3月末までに1,220件、総額2,030万円を超えるご寄付を賜り、協会運営と事業の継続に大きな力を与えていただきました。ご賛同くださった皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

各界からのお励ましに支えられながら、仏検は昨秋より開催を再開し、全国の関係者の並々ならぬご尽力の甲斐あって、20年度秋季、21年度春季ともに、予定した全ての会場で無事に開催を終えることができました。感染対策を講じた試験運営のノウハウを築き、また面接試験の一部オンライン化を推進するなど、問題に対処し今後の展望を拓くための知識と経験は着実に蓄積されつつあります。ただ、回を重ねて浮き彫りになったのは、コロナ下で試験を開催することの収支面での厳しさです。受験者数は秋春ともに前年同季から約20%減少したのに対し、三密を回避できる席数を擁した会場の確保、感染防止用の資材の調達等のため、会場費支出は約15%増加しました。ワクチン接種の普及等による状況の改善が切に待たれますが、当面は秋季試験でも同様の課題を抱えて準備を進めることとなります。安定した受験機会を提供し続けることの意義を旨としながら、実施団体としての財政基盤の弱体化を食い止めるため、「仏検存続のためのご寄付」の呼びかけは今後も継続して行ってまいりたく、ご理解とご協力を賜りましたら幸甚に存じます。

当協会といたしましても、運営のスリム化に努め、オンラインシステムの導入など新しい「仏検」のあり方を模索し構築してまいりながら方向性には変わりなく、強い覚悟をもって努力を続けてまいります。日本におけるフランス語学習の柱として、40周年の「仏検」をさらに新しい時代へと繋ぎ、ひろく生涯学習社会におけるフランス語能力検定制度として発展させ、ひいてはグローバル社会における多様性の尊重の維持に貢献するためにも、当協会の公益事業「仏検」の活動にご理解とご賛同を賜り、ぜひご寄付をお寄せくださいますよう、心からお願い申し上げます。

2021年9月

公益財団法人フランス語教育振興協会
理事長 西澤 文昭



※これまでの皆さまのご支援のおかげさまをもちまして、内閣府より公益社団法人等寄附金特別控除が2021年8月27日付で当協会にも認められました。同日以降に当協会にお寄せいただいた個人からのご寄付は、確定申告時に所得控除と税額控除のいずれかの適用をお選びいただけます
※お手続きの詳細はホームページにてご案内しております 〈お問い合わせ〉 donation@apefdapf.org